

CPep

C-ペプチドキット

生理活性は不明ですが、インスリン1分子に対して、C-ペプチド1分子が生じることより、インスリン分泌能を知る指標となります。

C-ペプチドを測定することにより、特にインスリンを投与している糖尿病患者などの内因性インスリン分泌能を推定する事ができます。

また、C-ペプチドはインスリンと異なり、尿中にも排泄されるため、随時尿のみならず、1日蓄尿も検体となり、1日のインスリン分泌能を推定できると言われています¹⁾。

1) 永田 他、内分泌機能検査の実際 インスリン・C-ペプチド系、ホルモンと臨床、43夏季増刊号, 95-102(1995)

仕様

試薬構成

免疫反応試薬	Eテスト「TOSOH」II (C-ペプチド)	(100テスト/箱)
標準品	Eテスト「TOSOH」II (C-ペプチド) 標準品セット	(6濃度、各2本/箱)
検体希釈液	Eテスト「TOSOH」II (C-ペプチド) 検体希釈液	(100mL x 4本/箱)

対象検体種 血清、ヘパリン血漿、EDTA血漿、尿

測定時間 免疫反応時間 10分 (1ステップサンドイッチ法) 結果報告 約20分

測定範囲 血清及び血漿検体 : 0.2~30 ng/mL
尿 : 2.0~300 ng/mL
(10倍希釈後の濃度では0.2~30 ng/mLに相当します)

健常人参考値 1.1~3.3 ng/mL (社内データ)

※尿中C-ペプチドは、測定に当たり検体を必ず希釈します。専用の検体希釈液で5倍以上 (通常は10倍) に希釈して測定してください。

尿中C-ペプチドは、尿中に細菌の混入がある場合、ある種の細菌の酵素により分解されます。蓄尿は、適切な防腐剤を使用するか、冷暗所にて行い、最近の繁殖のないように注意してください²⁾。

※関連物質の交差反応性を調べた結果を示します。

項目名称	交差反応性		
	インスリン	C-ペプチド	プロインスリン
#IRI	100%	0%	2%
#CPep	N.D.	100%	32%

N.D. : 検出不能

※CPepではプロインスリンとの交差反応性が認められました。プロインスリンの通常検体中での存在比率はインスリン、C-ペプチドに対し数%以下であるといわれています。その場合の交差反応性はほとんど無視できます。しかし、インスリン自己抗体保有者や高プロインスリン血症患者検体で、血中プロインスリン濃度が高い場合、C-ペプチドとして測定される場合があります³⁾。

2) 関根 他、保存における尿中C-ペプチドの安定性について、医学と薬学、36(4), 797-802(1996)

3) 堀野 他、C-ペプチドの分泌と血中動態、ホルモンと臨床、25(10), 1059-1065(1977)